編集後記

本号も前号同様に、当室室員が取得したり、参画している外部助成よるプロジェクトの成果の一端で誌面を埋め尽くす形になった。この場をお借りして、まずは、助成元さらには各プロジェクト代表者など、関係各位に厚く御礼申し上げたい。

本誌編集途中の 2017 年 3 月 6 日に、本研究科名誉教授の大河内暁男先生が逝去された。享年 84 であった。先生にはこれまで、経済学図書館や経済学部資料室所蔵資料の充実のために、多大なるご援助を賜ってきた。特に御尊父の一男先生と二代にわたってアダム・スミス文庫の保存と発展に力を尽くしていただいた。さらに、一男先生が関わられた政府審議会・委員会関係資料の多くをご寄贈いただいた。

本誌内にもその成果が発表されているように、当室では、アダム・スミス文庫や大河内一男資料を含む政府審議会資料に関する基礎研究を進めつつある。これらの成果を先生にお伝えする機会が失われてしまったことは、残念の極みで

ある。

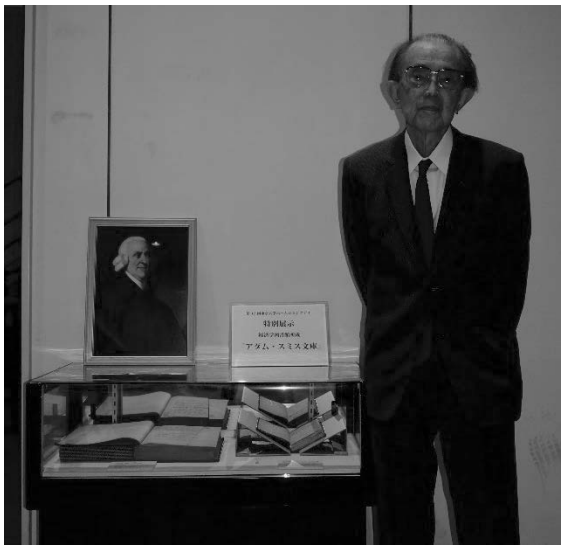
10 数年前のこと、経済学図書館のスタッフルームから色あせたアダム・スミスの肖像写真が見つかった。調べると、以前に閲覧室に掲げられていたものであったこと、原画は Scottish National Portrait Gallery の所蔵であること、原画を撮影してきたのは大河内一男先生であったことがわかった。

そこで暁男先生にお尋ねすると、ネガをお持ちとのことであったので、ネガを複製してデジタルデータを作成した上で、改めてスミスの肖像を図書館閲覧室に掲げさせていただきたいとお願いした。先生はネガの貸与とそこからの肖像画の複製を快諾されたので、スミスの肖像画は数十年ぶりに経済学図書館の閲覧室にひときわ高く掲げられることとなった。

数年後に資料室が現在の建物に移転し、小さな閲覧室を持つことになったときも、同じスミスの肖像画（こちらは、閲覧室の規模に合わせてかなり小ぶりのものであるが）を掲げ、先生も喜んでくださった。

2013 年 10 月 29 日のホームカミングデーにて、『国富論』の初版本と『道徳感情論』のドイツ語版、そして普段は資料閲覧室に掲げてあるスミスの肖像などを展示した。暁男先生も来場され、スミスの著作と肖像画を前に様々なお話を伺った。先生とお会いしたのはこれが最後となってしまい、以後お話をうかがう機会を逸してしまったことが悔やまれる。

私が最初に先生ときちんとした形でお話したのはアダム・スミスの肖像画に関してで、最後にお会いしたのは同じ肖像画の前であった。心よりご冥福をお祈りしたい。



ホームカミングデーでの大河内暁男先生

（2013 年 10 月 29 日）

今号は不慮の事態で発行が危ぶまれたものの、原稿をお寄せいただいた執筆者各位と、好文出版社の尾形社長のおかげで、無事発行に漕ぎ着けた。心より御礼申し上げたい。

最後になったが、この年度末をもって佐口和郎資料室長が任期満了となる。先生にはこの 2 年間、資料室のために労を惜しまずご尽力いただいた。先生は部下からみれば、冷静沈着、深謀遠慮という言葉がぴたりと当てはまり、どのような理不尽な案件に対しても、決して憤ることなく物事を筋道立てて進めてくださり、部下として大変心強い上司であった。この場を借りて室員一同、感謝の意を表したい。

（小島浩之）